

日付:2015年3月1日／聖書:ルカによる福音書16:1～9

主題:「何に忠実であるべきか」

「不正な管理人」の警え話は、管理人が金持ちの財産を管理していたが無駄遣いをしていることが告発された。しかしこの管理人は、悔い改めもせず、常識では有り得ない事として、この難を逃れていく。しかも主人は、その行為に対し“よくやった”と褒めている。このことは、正論を理屈で押し通そうとする人には、問題発言として聞こえてくるが、不安定な生活を強いられている者にとっては、なんとも有り難い話になる。この警え話は、この世の正論に対し、律法学者、ファリサイ派の正論、権力者の正論に対して、「何に忠実であるべきか」を問うているように思う。

先週日曜日の朝、辺野古キャンプ・シュワブゲート前で連日座り込みを続けている中で、山城博治さん(沖縄平和運動センター議長)が、基地内不法侵入罪として米軍に逮捕された。山城さんは、ゲート前入り口でふくれ上がる市民の集団に少し下がるように指示し(当日、県民集会が行われることで朝早くから大勢の市民が辺野古に集まって来た)、米軍に背中を向けている時に基地内に引っ張られて行った。このことは、米軍の立場に立てば、不正行為と言いたいのだろう。米軍の平和運動に対するいらだちから来ていることは十分に知り得ること。先週火曜日、山城さんが釈放された翌日に直接お会いして話を伺った。山城さんが連行される時、市民の怒りが頂点に達し、今にも基地内になだれ込もうとする状況があった。すると「WE SHALL OVERCOME」の歌声が聞こえて来て、その歌につられるように皆が歌い出し、冷静になって暴動は制止された。山城さんが「ありがとう、ありがとう」と何度もおっしゃっていた。ゲート前ゴスペルが少しでもお役に立てたのかなあと、本当に嬉しく思う。

日本政府は、菅官房長官の指示にて辺野古キャンプ・シュワブゲート前の座り込みテントを強制撤去する指示を出したとして、国土交通省からの通達で、県の国道事務所の職員が24時間体制で監視が置かれている。今にも県警が動員されて排除に動こうとしている。政府から見れば、不正行為と言いたいのだろう。米軍、日本政府の正論でいえば、ゲート前の新基地阻止行動は不正な行動と言いたいのだろう。しかし、余りにも権力を持って、理屈を持って、排除に動いている。今朝の御言葉は、私たちがどこに身を置き、どこを立ち位置にして行動するかによって、これが正論なのか、不正なのかが変わる。私たちは「何に忠実であるべきか」を問われて行きたい。

(神谷)